

## 1. 政策協議の趣旨を振り返って

実施要綱：

- ・ ODA 政策についての双方の意見・情報交換
- ・ より良い ODA を共に考える
- ・ 連携を強化する
- ・ 政策のアカウンタビリティを高める

以上のような ODA 政策協議会の趣旨・目的と精神に則って政策協議会は、長年外務省と NGO が個別のプロジェクトから ODA 政策までを双方向で議論する開かれた場として機能してきた。

## 2. 定期協議の枠組み変更の議論

- ・ 政策協議が ODA 政策に関わる協議を行う場であることから、政策協議・連携委員会共通の政策課題の認識が生まれ、NGO、外務省双方から提案があった
- ・ NGO 側からの提案：全体会を年 2 回に増やす
- ・ 外務省側からの提案：政策協議を全体会への一元化（事実上政策協議会の解消）
- ・ 結果としては政策協議の趣旨に対する認識の齟齬が生じる

## 3. NGO コーディネーターから見た外務省対応の問題点

（以上のような経緯から政策協議会で恒例となっていた事前手続きや実施要綱の要件が満たされないという事態が生じた。）

- ・ 事前質問への書面での回答がない（議題提案書フォーマット記載事項）
- ・ 協議日程直前の日程変更
- ・ 逐語が基本の議事録（実施要綱要件）の要旨のみの掲載など

## 4. NGO 側の課題

### 1) 議案提出における NGO 側の課題

- ・ 議題がじゅうぶん練れないまま提出されている → 議論を前提に、論点を整理して提出議事録に載せることが目的化しているケースもある

### 2) NGO コーディネーターの課題

- ・ NGO の議案を議論のできる形にまとめることができなかった（コーディネーターの権限の問題もあり） → 議案提出 NGO と協力して議題を絞り込み、調整する
- ・ NGO に対してわかりやすい議題の提案ができていなかったため参加 NGO が固定されてしま

った →参加者に対して議題に興味を持てるよう提示し、参加者増を促す。たとえば、個別イシューを貫く普遍的な問題にも焦点を当てるなど

## 5. 政策協議会の趣旨・目的・精神と信頼関係の回復・強化に向けて

- ・ 運営のルールを守りつつ、信頼関係を回復・強化し、政策イシューに関して透明性をもった実りある議論を行う

## 6. 今後の取り組み

- ・ 議題は広く ODA のあり方から個別プロジェクトまで（個別のプロジェクトにおいても政策課題としてイシュー化に努める）
- ・ 連携推進委員会との共同議案。（「援助効果」など）
- ・ 積み上げを目指せる議論は勉強会、ワーキンググループを設置。
- ・ NGO による ODA 政策（中期政策、ODA 大綱など）の決定プロセスへの参加と市民に開かれたプロセスの構築に関する協議の継続
- ・ ODA 政策協議会の評価を検討する

以上